昭和60年(1985年)4月10日　教皇様の聲　(昭和59年10月1日第三種郵便物認可)
4　APRIL, 1985　毎月10日発行　第60号

教皇様の聲

主の復活の証人

私達は、主のご復活が確かな事実であることを証明しなければなりません。

1　復活が与える霊的な光を繰り返し体験せよと、全てが呼びかけるこの謁見の時を利用して、使徒行録の一節を黙想していただきたいと思います。「神が復活させたのは、そのイエズスであります。私たちはみな、そのことの証明者（目撃者）です。」（使徒行録2・32）

典礼が五十日間つづけるこの復活のアレルヤが響きわたる今、ペトロが使徒として福音宣教を始めるにあたり行なったこの力強い宣言には、特別な意味が加わってきます。

ほんとうに死去されたキリストは、間違いなく復活されたのです。教会はこの「圧倒的な証言」を、二十世紀にわたり世界に示し続けてきました。文化的、社会的ないかなる環境にあっても、いずこの空の下においても、教会の司牧者の発言によって、大勢の殉教者の犠牲によって、さらに、数知れぬ聖人の群の献身を通して、教会はこの証言を繰り返してきました。そして今年もふたたび同じ宣言を繰り返しています。

一人ひとりが証人

2　復活された御方を証言するのは、神の民全員の義務であります。公会議はこの点をはっきり述べました。洗礼を受けてキリストと一つになった信徒の使命を強い調子で次のように要約しています。「信徒の一人ひとりが世に対して、主イエズスの復活と生命の証人となり、生きる神のしるしにならねばならない」と。（『教会憲章』38）

証言するとは、何らかの方法で自己の体験から得た確信の上に立って、ある事実を証明することです。敬虔な婦人たちは、主の復活の最初の証人でした。（たとえば、マテオ28・5～8参照）そのとき婦人たちはイエズスに出会ったわけではありません。しかし、墓が空になっているのを我が眼で見、驚くべき事実について天使の説明を聞いたあとで、イエズスの復活が確かな事実であることを認めました。これこそ婦人たちが初めて経験した秘義、また、復活された御方の出現のあとで、さらに強められた秘義であります。

キリスト信者なら誰しも、史実に基づいた伝承、とりわけ確かな信仰によって、キリストが復活された御方であること、従って永遠に生きる神であることを「体験」します。それはあまりにも深遠かつ完璧な体験であるゆえ、個人的な事柄として自分のうちに閉じ込めておくことができず、自然に外にあふれ出て行きます。あたかも輝く光のように、練り粉のかたまりをふくらませるパン種のように。

正真正銘のキリスト信者とは、生まれついての（生きる福音であるべきです。）遠い昔から外国で生きのびてきた真理を述べる弟子ではなく、空虚な信条をただ繰り返すのみの人でもない。真のキリスト者とは、キリストが現代の人であり、福音が斬新さを失うことはないと確信しつつそれを執拗に主張する人。誰の面前であろうと、いつ何時でも、自分が心に抱く希望の根拠についてたずねる人に、即座に説明できる人のことなのです。（ペトロ①3・15参照）

新たな情熱

3　証とは、前任者パウロ六世が強調されたように、「福音宣教において主要な、そして第一の課題です。」（『福音宣教』21）現在、証は特に必要とされています。何しろ、精神がどこへ向かうべきか定かでない時代、もろもろの価値が失墜してしまった時代であるからです。この価値の失墜が危機をよび、それが文明全体の危機として、従来になくはっきりとした姿を見せています。

現代人は、物質界征服の快挙に酔いしれながらも、一方ではそれがもたらす破滅に脅威を感じています。だからこそ、絶対的な確実さとか、時の腐敗に抵抗するための視野を必要としている。心の奥底にある高貴なものを望む心、それを取り去ってしまうイデオロギーの迷路をさまよっているため、満足できず落胆し、真理を、そして光を追い求めている。多くの場合、たぶん、自分でもそうとは知らずにキリストを捜し求めているのです。

様々な文化の様式をわたり歩いたあげく得るところのないまま悲しみを味わっている現代の人は、パウロ六世の鋭い観察によると、「教師の言うことよりは、生活のあかしによろこんで耳を傾ける。教師の言葉に耳を傾けることがあるとすれば、その教師が生活のあかしをたてているからである。」（AAS 66: 1974, p. 568）

復活祭を迎えた今、聖パウロの勧めはまことに今日性をもって迫ってきます。「あなたたちは新しい練り粉になるために、古いパン種を取り除かねばならぬ。」（コリント①5・7）

現在の際立った特徴が明らかになればなるほど、それだけ一層深く、今こそ真のキリスト信者の時である、すなわち、信仰に強く、希望においては大胆、善業には気前よく、従って「キリストの証人となる」ことに熱心な信者になるべき時であることがわかってきます。新しい教会法典には（第225の2）信徒の義務についてこう記してあります。

現在は、同じ信仰をもつ大勢の兄弟姉妹が信仰のあかしをするために大変な犠牲を払っている時代です。全体主義体制のただなかにおかれ、自分の信仰を告白するという最も基本的な自由を奪われた人、現代の殉教者であります。彼らの数知れぬ犠牲と剥奪、彼らの大胆な態度、これこそ私たちにとって一つの警告であり、模範です。みなさん方一人ひとりが彼らのように、熱意も新たに、「キリストは復活された。私はそのことの証明者である」というペトロのあの宣言を、公に宣言してくださいますように。

みなさん方に心からの使徒的祝福を送るにあたり、これが私の望みです。

（一九八四・四・二十五）

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticano の転載許可済
© 1985 精道教育促進協会 ☎（芦屋）三二・三四五二 芦屋市船戸町12—6

信仰と道徳 シリーズI

「信じて洗礼を受ける者は救われ、信じないものは滅ぼされる。」(マルコ16・16)

「聞かなかった者をどうして信じられよう。」(ローマ10・14)

1　私たちは聖霊降臨の日のエルサレムに居ます。その日、高間に集った使徒たちはみな「聖霊に満たされました。」(使徒行録2・4)「突然、天から激しい風が吹いてくるような音が聞こえて」、「火のような舌が現われた。」(同上2・2、3)　そしておのおのの上に止まった。それ迄閉じられてあった高間はこのとき開かれ、使徒たちは、あちこちの地方や国からやって来たユダヤ人巡礼者に会うために出て行きます。人々は、「霊の言わせるままに」(同上2・4)いろいろの国の言葉で話し始めた使徒たちを見て驚きます。使徒たちの出身がガリラヤであると知っていましたから。

高間の近くに集う群衆に向かい、ペトロが話しはじめます。聖ペトロは、「私の霊をすべての人の上に注ごう」と預言するヨエルを引用し(同上2・17参照)、続いて、自分に耳を傾ける人々に、ナザレトのイエズスについて聞かせました。ペトロはさらに続けます。神がイエズスの救いの使命を「奇跡と不思議としるし」で承認されたこと、イエズスが死にわたされ、「悪人の手によってはりつけられ殺された」こと、そしてまた、神がキリストのみわざを復活によって決定的に承認されたことを。「神は死の束縛を解き、彼をよみがえらせました。」(同上2・22、23、24参照)　聖ペトロはここで、復活を預言する詩篇15(16)に言及しているようです。しかしなかでも、自分と他の使徒たちの目撃したことを思い起こしています。「私たちはみなそのことの証明者です」と。(同上2・32)「従って、イスラエルのすべての人は、あなたたちが十字架につけたそのイエズスを神が主としキリストとされたことを、しかと知らねばなりません。」(同上2・36)

福音宣教と洗礼前の要理

2　ペンテコステと共に教会の時が始まります。この教会の時は同時に使徒たちの福音宣教の始まりでもあります。シモン・ペトロの説教は福音宣教の第一声というわけです。弟子たちはキリストから命令を受けました。あなたたちは全世界へ行って弟子をつくれと。(マテオ28・19、マルコ16・15参照)　そこで彼らは、祖国に敬意を表して、まずエルサレムで命令を果たしました。とは言え、そこには色々な国の、色々な言葉を話す人たちのいわば代表が居合わせたわけですから、自国のみを対象にした第一歩ではありません。また、御父のもとにお戻りになる贖い主の命令に従い彼らの福音宣教は、至聖なる三位一体のみ名において授けられる洗礼への招きと結びついていました。それだからこそ、兄弟たちよ、我々は何をすべきなのか、とたずねられた聖霊降臨の日、ペトロはこう答えたのです、「悔い改めなさい。イエズス・キリストのみ名によって洗礼を受けなさい」と。(同上2・38)

「そのことばを聞き入れた人々は洗礼を受けた。その日弟子に加えられたのは三千人ぐらいであった。」(同上2・41)

こうして、「使徒たちの教えること、兄弟的な一致、パンを裂くこと、祈りをすることに専念する」受洗者の集いとして、教会が誕生しました。教会の誕生は福音宣教の始めと時を同じくしたわけですが、それは同時にカテケージスの始まりであった、と言えるでしょう。これ以後、ペトロの話はイエズス・キリストに関する福音の布告、すなわち福音宣教であるのみならず、受洗の準備の指導、つまり洗礼前のカテケージスになりました。また、洗礼を受けた人々の最初の共同体が使徒たちの教えに専念したことは、教会が始めから組織的にカテケージスを行なったことを示しています。

ニュー・シリーズ開始

3　私たちはたえずこの始まりを思い起こさねばなりません。「イエズス・キリストはきのうも今日も同じである」(ヘブライ13・8)ならば、あらゆる世代、あらゆる時代を通じて、教会の福音宣教とカテケージスも同じであります。第二バチカン公会議のあと、続く二度の司教会議で、現代世界における教会の使命として、福音宣教とカテケージスが扱われました。この仕事の実りが、『福音宣教』と『要理教育に関する使徒的勧告』です。両文書は福音宣教とカテケージスとの密接なつながりを説明すると同時に、双方に固有な役割を指摘しています。

4　教会が今日も「使徒たちの教えることに専念しなければならない」とすれば、そのためにどうしても必要なのが、「すべての人々に」(マルコ16・15)福音を告げることであり、『要理教育に関する使徒的勧告』に則り、組織的にカテケージスをすることであります。

聖霊降臨の日、シモン・ペトロはエルサレムで教会のカテケージスを始めました。その後継者、ローマの司教、キリストの代理者は、このペトロの仕事を続けなければなりません。そこで私は本日の謁見を契機に、組織的全体的なカテケージスという枠内で、信仰と道徳についての一連の説明を始めたいと思います。みなさん方キリスト者全員に、神が私たちを愛するあまり啓示し、また、実現させてくださったこと、さらに、教会が初代より今日に至るまで続けてきた教理的な考察を提供するということです。この瞬間から私は、聖霊降臨の日ペトロのカテケージスを導いてくださった聖霊に、謙遜な心で恩寵をお願いします。

(一九八四・十二・五)

全世界の国の言葉でこの復活のメッセージが語られますように！

1　「なぜ、死者の中に生きたお方をたずねているのか。彼はここにはおいでにならない。よみがえられた。」(ルカ24・5～6)

死者の中におられるお方、十字架につけられたキリストをさがしに来た婦人たちは、このような言葉を聞かされました。

婦人たちにはこの言葉の意味がつかめません。けれども、とにかく墓は空っぽなのです。

安息日の翌日の早朝から、この空っぽの墓の知らせは広がります。

この知らせの中で、最初のイースターのメッセージが発展して行くのです。

「あなたたちは十字架につけられたナザレトのイエズスをさがしているが、イエズスはもうよみがえって、ここにはおいでにならない。」(マルコ16・6)

「主の右腕は勝利をあげる！」(詩篇118(117)・16)

2　「キリストが納められてあった」(マルコ

説教・講話・書簡等の抄訳

16・6）その場所へと、何世紀にもわたって巡礼がつづきます。

各世代の人々はこの空っぽの墓の前で立ちどまる、ちょうどかつて最初の目撃者たちがそこで立ちどまったように。

今年は従来よりもっと頻繁にキリストの墓へ巡礼に行こうではありませんか。

聖なる婦人たちが口にしたあの最初の言葉を考えてみましょう。その言葉の中で復活祭のメッセージは発展して来たのですから。(…)

キリストによる救世は、十字架に始まり、復活で完成します。

「神の子羊は羊たちをお救いになりました。罪のないキリストが、罪人たちを御父と和解させられた。」

3　ごらんなさい。人間は死から救い出されて、生き返りました。

ごらんなさい。人間は罪から救い出されて、愛をとりもどしました。

やがて死の暗闇に入るあなたがた全員、どこにいても、よくおききなさい。キリストはよみがえられたのです！

罪の重荷を背負って生きているあなたがた、よくおききなさい。キリストはその十字架と復活によって罪を征服されましたから、主の御力に従いなさい！

4　現代世界よ、主の御力に従いなさい！

自分の中に罪を見つけると、それだけ一層人生の彼方にある死が恐ろしくなる。そんなときには、一層主の御力に従うのです！

5　キリストよ、御身は、過去、現在、未来にわたる人の世を、罪にみちた古い世界を、十字架の上で受け入れてくださいました。罪深い世を御身の復活によって新たにしてください。贖いの御力で、すべての人間の心を訪れ、この世を新しいものにしてください。

6　よみがえられたキリストよ、御身の光栄に満ちた御傷の中に、現代、人間がもつ傷を受け入れてください。この傷については色々なところで話題になっています。またその傷は、人々が心の中で黙しつつひそかに耐えてきた痛みでもあります。こうした傷の数々を、復活の秘義によっていやしてください。死よりもはるかに強い御身の愛で、このような傷口をふさぎ癒してください。

7　この秘義の中で、

——私たちはあなたがたと共にいます。貧困と飢えに苦しみ、時にはパンを求めて泣き叫ぶ子供たちに手を差しのべるあなた方と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。何百万人もの難民の方々、自分の家を追われ、母国から亡命して来たあなた方と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。恐怖の犠牲者たち、監獄や収容所に閉じこめられ、虐待され拷問されてやつれ果てたあなた方と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。暴力や内戦の脅威にさらされて、悪夢のような毎日を過ごしているあなた方と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。ポンペイの市民たちが地震のためにひどい目にあったあのときのように、思いがけない災難に苦しんでいるあなた方と共に。

——私たちはあなたがた家族と共にいます。キリストを信じているがために、子供たちの勉強や職業にまで及んでいる差別をも含め、差別に苦しんでいる多くの家族と共に。

——私たちは親であるあなたがたと共にいます。精神的な問題に苦しみ当惑しているあなたがた親御さんたちと共に。

——私たちは若いあなたがたと共にいます。熱望している仕事や家庭や社会的な尊厳を見つけることができず、落胆している若いあなた方と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。病気や老齢や独りぼっちの淋しさのために苦しんでいるあなた方と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。心配事や疑惑のために当惑し、知性に悟りを、心に平和を捜し求めているあなた方と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。罪の重さを感じて、救い主キリストの恩寵を捜し求めているあなた方と共に。

そしてまた、ご復活のこの秘義の中で、

——私たちはあなたがたと共にいます。最近キリストの慈しみ深い御腕の中に身を投げ出して、キリスト信者として立派に生きようと新たな決心をしたあなたがたと共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。回心し新しく洗礼をうけたあなた方、福音に招かれたことに気づいたあなた方と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。家族や社会の中で善行と和解の努力を続け、不信の壁を取り除こうと努めているあなたがたと共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。仕事を持ち、教養のあるあなた方、自分の働いている所で福音のパン種になりたいというあなた方と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。キリストに身を捧げた修道者の方々、特に宣教地でキリストに贖われた人間性についての福音を、多くの兄弟姉妹たちにもたらすために命がけで働いているあなた方と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。キリストを信じて殉教した方々、多くの場合、秘密裡になされて世に知られていない圧制の真只中にありながら、黙々として祈り、忍耐強く耐えしのび、迫害する人々のために赦しと回心を乞い願うことによって、教会を豊かなものにしているあなたがた殉教者と共に。

——私たちはあなたがたと共にいます。すべての民族、すべての大陸の善意の人々、キリストとその教えの吸引力にひきつけられているあなた方と共に。

私たちは今日、傷つけられているすべての人々と共にいます。そして兄弟姉妹の皆さんのすべての期待、希望、喜びと共に。よみがえられたキリストがそれらすべてに意義と価値とを与えてくださいますから。

8　本日教会は、キリストにおける兄弟たち全員と、全世界の人々と共に、復活のメッセージを分かち合います。私たちはあなたがたと共にいます。特に、良心を抑圧されて、共に祈り共にイースターを祝うことのできないあなた方と共に。

すべての人がこのメッセージを受け入れることのできますように！

様々な国の言葉で語られますように。また言葉の足りないところでは、直接霊魂を訪れて心の奥底で話してくださる聖霊が雄弁に語ってくださいますように。

ご復活おめでとうございます。

復活なさったキリストが、みなさんがた一人ひとりに祝福をお与えくださいますように！

「主は復活された。アレルヤ。」

不変の教え

黙想のしおり ⑤

典礼

歴史の証明を忘れてはいけない。修道生活が活気に満ちているか、それとも衰微していくかの試金石は、祈りに忠実であるか、それとも祈りを放棄しているかによるのだ。

救い主キリストよ、御身の贖いの犠牲に私たちは感謝を捧げます。それは人間の唯一の希望です。

救い主キリストよ、御身の聖体に私たちは感謝を捧げます。御身はその祭儀を定めたまい、幾世紀にもわたって、御身の兄弟たちを真につどわせたもう。

救い主キリストよ、信者の心に望みを吹き入れたまえ、御身と共に自らを捧げ、兄弟たちの救いのために尽くそうとする望みを。

苦しみ

高齢という試みのとき、主は痛みを共にしてくださる伴侶であり、みなさん方は主の十字架の道行の伴侶である。一滴の涙も一人っきりで流すことはなく、一滴の汗も無駄に流すことはない。主はご自分の苦しみで人々の苦しみをあがなわれた。みなさん方は自分の苦しみで、主の救いのみわざに協力するのだ。(コロサイ1・24参照)みなさん方の苦しみを主の抱擁と考えて。

苦しみとは、永遠の喜びへのかけ橋にすぎない。(ローマ8・18参照)そして、永遠の喜びはゆたかな実りを与える苦しみを基(もと)としている。み摂理の中では、すべての苦しみは産みの苦しみである。そうして新しい人が誕生するための。

苦しみにおいてこそ、救いの恩寵は心に深く根づく。

仕事

最も大切な仕事とは、世を変えることではなく、私たち自身を変えること、つまり、創造主が私たちの本性に刻み込んでくださった神の似姿に、日ごと近づくことである。最新の精密技術を使って自然を支配できたところで、万一、神法に照らされ良心の導き手にみずからを従わせることができないとすれば、何の役にも立たないのだ。そうなると、主の問いかけが心に迫ってくる。「よし全世界をもうけても、自分の命を失えばそれが何の役にたとう。」(マルコ8・36)

仕事において聖性を求め、仕事を通して聖性を求める。仕事の世界にとって、みなさんの聖なる生き方はぜひとも必要なのである。ところで聖なる生活の中味とは、教えと祈り、キリストとの親しさと仕事、つまり神への愛ゆえに生きることである。

ではこのような生き方の動機とは何であろう。みなさんがよくご存じのことばを引用してこたえることにしよう。「自然的召しだしや職業的召しだしは、神から与えられる超自然の召しだしの重要な一部分なのです。重要であるからこそ、自己の仕事や環境を聖化することによって自己の聖性を求めるのみでなく、同時に聖化に貢献しなければならないのです。つまり、毎日の生活の大部分を占めるだけでなく、この世に生を営むものの特長となるべき仕事や任務、さらに、家族や家庭、そして自分が愛する祖国を聖化しなければならないのです。」

キリスト者は人間の働くことの中にキリストの十字架の小さい部分を見出し、キリストが人々のためにご自分の十字架を引き受けてくださるのと同じあがないの精神でこれを引き受けます。

神の国の到来

1　キリストと神の王国は(コロサイ1・13)、主が、サタンと罪と死の支配を滅ぼした後、あらゆるものの中のすべてとなられた時に、成就されます。

けれども、神の国はすでに歴史の中で「神秘的なかたちで」現存しており、それを信じる人々の中で働いています。それは教会の中にも現存しています。ところで教会は、救いの秘跡であると同時に秘義であって、その秘義はすべての人の救いをお望みになる慈悲深い御父しか知りえません。地上の教会はその聖性によって未来の王国の豊かさを前もって示しているのです。

コロサイ人への手紙にあらわれる神の国についてのすばらしい表現(コロサイ1・13)はすべてのキリスト信者にあてはまりますが、悪の圧迫から完全に保護されたマリアに特にあてはまります。「神は私たちをやみの権力から救い出し、愛する子の国に移された。」神の国が歴史に登場したのはキリストにおいてであり、それを信じた人々は、神の国の共有者となりました。「その方を受け入れた人びとには、みな神の子となれる力を授けた。彼らはそのみ名を信じる人たちである。」(ヨハネ1・12)キリストの母であり、みことばに忠実な弟子であるマリアは、光栄に満ちて神の国に入りました。被造物としての全存在を主に愛され(ギリシャ語、ケカリトメネ)、聖霊の力を受けたマリアは、世の終わりの具体的な証人であり、前触れなのです。

2　処女(おとめ)マリアは、地上でのご生活中すでに未来の善のしるしであり期待でありましたが、今や光栄を受けて主キリストの傍におられ、神の王国を象徴しかつ成就する御方であります。マリアこそ、「多くの兄弟たちの長子」、「新しい創造の始まり」、「教会の頭」(コロサイ1・18～20参照)であるキリストに従った最初の人、さらに、主の光栄を相続した最初の人であります。私たちの姉というべきマリアが栄えを受けたという事実は聖書の言葉をこの上なく素晴らしく確証するものです。「私たちをキリストとともによみがえらせ、ともに天に坐らせてくださった。」(エフェゾ2・6)マリアが神の国に入ったことは、キリストの肢体である教会全体がいずれ主の光栄に入ることの保証であり、約束なのです。

3　いとも聖なるマリアの奉献の日に、教会は「観想修道者の日」を祝いました。(…)第二バチカン公会議が述べているように、観想修道者たちは観想のためにすべてを奉献し、孤独と沈黙の中に、絶え間ない祈りと罪の償いを通して、神御一人だけに自己を捧げる共同体のメンバーとして、キリストの神秘体の中で抜きんでた場所を占めておられます。「それは、彼らが主に選りすぐった犠牲という賛美をおささげしているからです。その聖性のこの上なく豊かな輝きで神の民を照らし、自らの手本を示して神の民に刺激を与えています。かくれた使徒職の豊かな実りを分け与えて神の民を育てます。このように、彼らは教会の光栄となり、天上の恩寵をあふれ出させる泉なのであります。」(『ペルフェクテ・カリターテ』7参照)

『教皇様の声』　ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙　■毎月　十日発行　■定価　一部七十円送料四十円
■一年予約八〇〇円送料五〇〇円　■二十部以上の一括購入なら送料不要
郵便振替　神戸　3-72393